

(3) サワラ *Scomberomorus niphoniusu*

イ 分布

サワラは暖海性の表層魚で、対馬暖流域では東シナ海から北海道以南に分布しており、中国大陸側では黄海や渤海（図8）に分布しています。また、太平洋沿岸と瀬戸内海に分布しています。

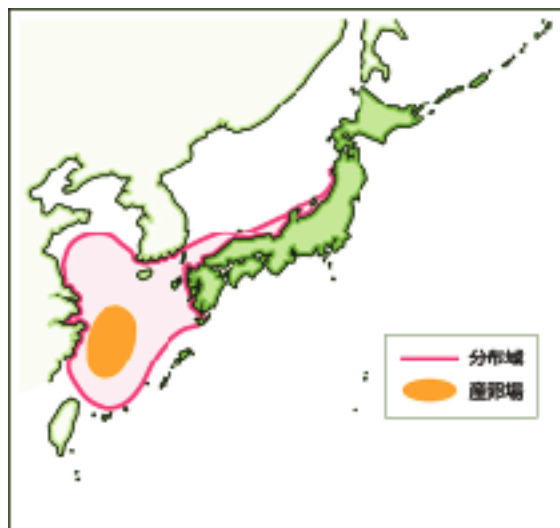


図8 サワラの分布

(独立行政法人水産総合研究センターによる平成16年度我が国周辺海域資源評価資料を改変)

ロ 漁獲量の増減と漁獲配分

京都府における漁獲量は、1999年までは数トンから数十トン程度でしたが、1999年以降、サゴシ（40cm程度の小型サイズ：当才魚）を中心にその漁獲が急激に増加し、数百トン漁獲されています。京都府以外の日本海側の各県でも、漁獲量が急増しています。

図9に1980年から2001年までの東シナ海で操業する大中型旋網によるサワラ漁獲量と、東シナ海区（九州の各県及び沖縄）と日本海西区（山口県から石川県）および日本海北区（富山県から青森県）の全漁法（但し、東シナ海区については旋網漁獲量を除く）によるサワラ漁獲量の推移を示しました。これを見ると、1980年代は東シナ海で操業する大中型旋網の漁獲量が圧倒的に多くなっています。東シナ海大中型旋網の漁獲量は、1985年に4万トン以上の漁獲量を記録した後急激に減少し、1993年以降数千トンで推移しています。この漁獲量の急激な減少は東シナ海で操業する大中型旋網による乱獲が原因だと考

えられています（西海区水産研究所1999）。

一方、1999年以降は、それまで漁獲量が数百トン程度であった日本海西区において、急激に漁獲量が増加しています。

さらに、それまでほとんどサワラが漁獲されていなかった日本海北区においても

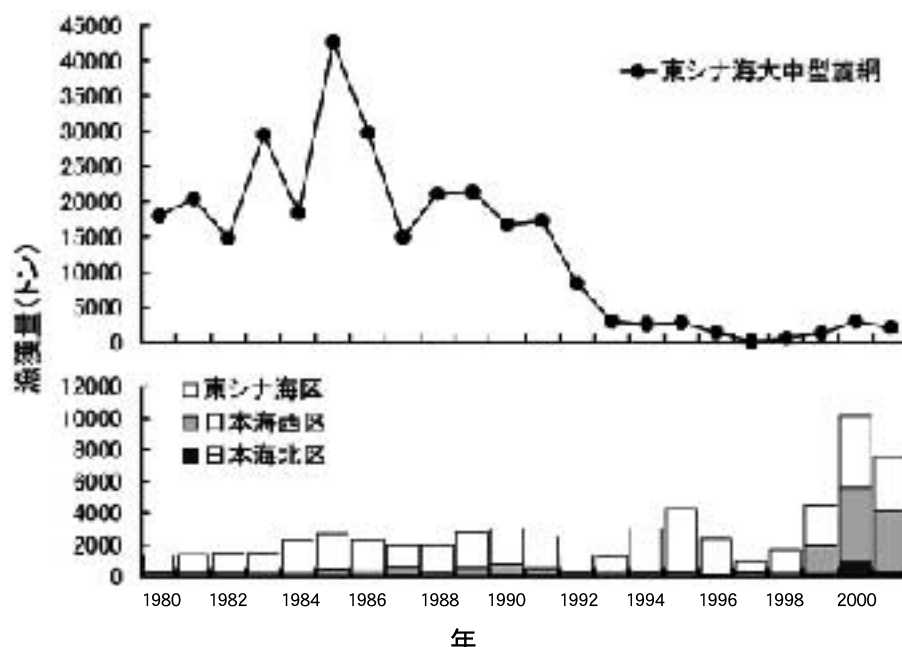


図9 対馬暖流域におけるサワラ漁獲量の推移